

令和8年4月24日

中標津町議会議長 後藤 一 男 様

中標津町議会議員 栗 栖 陽 介

## 研 修 報 告 書

以下の研修について、次のとおり報告します。

- 1 研修名 新任時議員研修（市町村議会議員特別セミナー）
- 2 研修先 市町村職員中央研修所
- 3 研修日 令和8年4月20日（月）
- 4 研修事項 【講演1】13：30～15：00  
農業の新たなかたちへ  
株式会社和郷代表取締役 農事組合法人和郷園代表理事  
木内 博一 氏  
株式会社和郷 ナレッジバンク事業統括取締役  
高橋 義直 氏

### 5 成果

木内氏は千葉県香取市の和郷園・株式会社和郷の代表として、農業を生産にとどめず販売・加工・流通・人材育成・観光まで一体設計する経営を30年近く実践してこられた方です。生産者の自律を出発点に、GAPや情報公開を徹底し、海外展開や六次産業化を広げ、規格外品活用や資源循環で農産物の価値を最大化されています。後半ではWAGO Agri Collegeによる新規就農支援も紹介されました。

産業として稼がなければ守ることもできません。補助金頼みでなく自ら市場に向き合う当事者意識に強く共感いたしました。本町は生乳、チーズ、肉牛、野菜、自然という他にない資源を持ちますが、個別に扱う限り価値は限定的です。生産から加工・販売・観光まで一体で設計し地域内で価値を循環させる発想が不可欠であり、意欲ある生産者や移住者の挑戦を後押しする仕組みを、本町議会としても真剣に検討すべきと痛感いたしました。

- 3 研修日 令和8年4月20日(月)
- 4 研修事項 【講演2】15:15~16:45  
これからの地方議会に求められるもの  
～地域マネジメントの視点の重要性～  
西南学院大学法学部教授 勢一 智子 氏
- 5 成果

勢一教授は行政法・環境法・地方自治法を専門とされ、地方制度調査会や地方分権改革有識者会議で国の制度設計に関わってこられた方です。人口減少社会における地方議会の役割を根本から問い直す講演でした。

2050年には人口1万人未満の市区町村が4割を超える一方、行政需要は多様化・複雑化し、少量多種のサービスを高コストで提供する現実があります。令和5年の地方自治法第89条改正では、議員が住民の負託を受け誠実に職務を行うべきことが明文化されました。議員が住民の実感から乖離した瞬間に議会は信頼を失うと思います。この改正は我々への警鐘でもあると受け止めております。

処方箋として提示されたのが「地域マネジメント」の視点です。限られた地域資源をどこに投資するかを地域の将来像に照らして選別し、その柱は分権改革の成果活用、DX、広域連携、部門横断の政策形成です。提案募集方式では3,800件超の8割以上が実現しており、地方が主役となる道筋は開かれています。私の感覚では制度は待つものではなく自ら取りに行くものです。本町も生物多様性地域戦略の共同策定など、近隣町村との連携を積極的に検討すべきです。持続可能性とWell-Beingを基準に、多様な声を反映させる場とすべきです。これこそ議会の現代の使命であると感じました。

- 3 研修日 令和8年4月21日(火)
- 4 研修事項 【講演3】9:00~10:30  
生成AIは議会を変える  
～“補完する”価値、“決める”責任～  
青森大学社会学部教授 佐藤 淳 氏
- 5 成果

佐藤氏の講演は、生成AIが地方議会をどう変え得るかを事例で整理した実践的内容でした。中心メッセージは、AIは議員や議会を置き換えるものではなく、調査・分析・要約・論点整理を補完する道具であり、判断し住民に責任を負うのは人間であるという一点にあります。

変化は三点に整理されました。インプットでは予算書や議事録の要約により調査分析の質と速度が高まります。アウトプットでは一般質問や議会だよりのたたき台づくりに活用できます。議論の場面では論点の見える化や住民意見分析により合意形成を支援します。一方でAIは誤情報を出し得るためファクトチェックが不可欠であり、効率化だけを追えば議員が原稿を読むだけになります。逆に使わなければ議会が取り残されます。使うことにも使わないことにもリスクがあるという構図は、まさに本質を突いていました。

私のような世代は新技術を敬遠しがちですが、食わず嫌いで済ませてはならないと痛感いたしました。導入は段階的に、まず事務局や個人で試し、会派・委員会、議会全体へと広げてまいります。個人情報を入力せず、無料版から始めて十分であり、議会としてガイドラインを整備すべきとのご助言も現実的でした。AIに問い、AIを疑い、最後は自分の言葉で住民に語る姿勢を崩さぬことが肝要です。本町議会としても早期にガイドライン検討に着手し、議員研修と併せて段階的活用を進めるべきと提言いたします。ちなみに本レポートはAIを使用し、修正をしたものです。

**3 研修日** 令和8年4月21日(火)

**4 研修事項** 【講演4】10:45~12:15

「脳と習慣」の切り離せない関係

株式会社感性リサーチ代表取締役、人工知能研究者

黒川 伊保子 氏

## 5 成果

黒川氏は、脳科学を日常や対人関係に落とし込み分かりやすく伝える第一人者でした。研修の締めくくりとして「人として議員としてどう生きるか」を脳の働きから問い直す内容でした。議員や会社経営を重ねる中で、人との関わり方一つで物事が動くことを経験してきた私にとって、その実感を脳科学で裏付けていただいたお話でした。

自己肯定感は「自分の脳への信頼」であり、早寝早起き、良い食事、適度な運動がその土台です。政治活動は不規則になりがちですが、言い訳にせず自らを整える努力を怠ってはならないと感じました。議員もまた、健康管理が仕事の一部であると痛感いたしました。膝を打ったのは雑談の価値です。雑談は脳を活性化する万能エクササイズであり、心理的安全性をつくります。議会でも委員会前の何気ない会話こそが議論の質を支えているのではないのでしょうか。対話の大原則は、相手の第一声をいきなり否定せず、まず受け止めることです。

失敗は脳にとって最高のエクササイズであり、人格評価に使わず未来への布石と捉えるべきです。挑戦には「ナイスチャレンジ」と声をかけ、支える姿勢を持つべきです。これは新任議員への励ましであると同時にベテラン議員への戒めでもあります。最後に強調

されたのが笑顔の力です。表情は気分をつくり周囲にも伝染します。大人は自分の表情に責任を持たねばなりません。生活習慣、安心できる対話、失敗の受け止め、そして笑顔。なかなか難しいですが、この4つを気を付けて本町議会と町政の発展のため精進していきたいと思います。